

予算等審査特別委員会

予算等審査特別委員会（議長を除く17人の議員で構成、委員長萩野幸弘議員、副委員長菊池美也議員）は、条例5件、予算6件、その他1件について付託を受け、審議を行いました。

今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全12議案が原案のとおり可決・承認されました。

事業系ごみが有料化に

平成31年4月1日から事業系燃えるごみ等の有料化導入について概要がまとまったことから、今定例会にその条例が提案された。

事業系燃えるごみとは、事業活動に伴って生じた廃棄物を指し、条例にはその定義や手数料について示されている。

導入案についての概要は、商工会、区長会、一般廃棄物収集運搬業許可業者等への説明会、パブリックコメント等で意見を聴取しまとめられたと説明があった。

遠野市廃棄物手数料条例の制定

問 事業系ごみの手数料と納付方法は。

答 遠野中継センターへ直接搬入する場合は、10キログラムにつき130円。地域の集積所に出す場合は、新

たに制作される有料ごみ袋を購入すること、30リットル袋につき100円の処理手数料を納入したことになる。

ビールの黒いづくりに向けて

問 6月議会ではホップ生産圃場の整備であったが、今回はビールの里構想の中で「遠野パドロン」の産地化を進める事業内容である。どのように展開するのか。

答 圃場面積を現在の露地栽培40アールから、周年栽培用ハウス70アールを整備する。

問 パドロン10アール当りの販売額が146万円から14・1倍の2千60万円となる説明であった。さらに生産拡大すべきと思うが。

答 野菜の重点品目のように、技術者から指

導を受けられる環境が整った場合、拡大が図られると考えている。

問 生産者が安心して取り組むことのできる契約栽培にできないか。

答 生産されたパドロンは、販路が確定している。契約栽培に繋がる量産体制の確立を図っていきたい。

問 ホップの総合的構想と設備更新を合わせた工程を考えるべきでは。

答 新規就農と育成に努めながら、乾燥施設についてもホップ農協と考えていく。

鱒沢やな施設活用方針は

問 鱒沢のやな施設は、土砂や流木が堆積されたままになっていく。今回の観光施設工事請負費に関係予算が計上されていないが。

答 田瀬ダム管理支所には、やな上流部に土

盛り工事を、市はやな周辺の土砂撤去をすることになっていく。しかし、大雨等の自然災害が多くなっており、良い方法を検討しなければならぬことから、今回の予算には計上していない。

問 やなの施設は、宿泊施設や関連施設と違い、限られた期間だけの利用である。間に合わなかった理由と今後の見通しは。

答 鱒沢やなは歴史もあり、観光資源の重要施設と認識している。県内外の施設対応の情報収集や地元と協議し、方針を固めてから地域経営会議に諮れるようにしたい。

問 早期に、堆積土砂の撤去が急がれる鱒沢やな



積土砂の撤去をしなれば、道路の管理に支障をきたしているが。

答 現状の改善については対応していく。廃止ありきではないので今後十分な議論をして対応したい。

児童生徒の健康状態が心配

問 酷暑における、普通教室の学習環境をどのように捉えているか。

答 (市長) 幸いにも、校内や学校行事において、熱中症にかかった児童生徒の報告は無い。

善をする必要があると認識している。

問 クーラー設置の早期計画策定が必要ではないか。

答 (市長) 保健室にクーラーがない学校もある。体調を崩した児童生徒の休養の場への設置を最優先とし、効果的な設置計画を策定したい。

財源について、国・県に要望し、平成31年度当初予算、補正予算のなかで検討したいと考える。



菊池 美也 議員

(政和クラブ)

一問一答方式

その他の質問

●組織再編その後について

子どもから広める共生社会

問 多様性を認め合う「共生社会実現」の機運はまだまだ醸成されていない。健康者が、障がい者の理解を深めなければならぬが、教育長の考えは。

答 (教育長) 偏見という様々なバリアを取り除き、お互いに理解を深めようとするコミュニケーションの中から、支え合う心の醸成を図ることが大切であると感じている。

問 難聴児童に対する学校の合理的配慮(情報保障)が足りていない。デジタルワイヤレス補聴システム「※ロジャー」を導入し、教育効果を上げる考えは。

答 (教育長) 「ロジャー」は、他の子ども達の話し声がある教室や、広い体育館など、学校生活の様々な場面での「聴こえにくさ」を解消する。機器の選定や、管理・運用のルール作りなど、配備に向けた手続きを進め、学びを保障する。

問 難聴児童に対する学校の合理的配慮(情報保障)が足りていない。デジタルワイヤレス補聴システム「※ロジャー」を導入し、教育効果を上げる考えは。

答 (教育長) 教育委員会には、子ども達の教育機会を確保する責任がある。今後も現場のニーズに適切に対応していく。

問 難聴児童に対する学校の合理的配慮(情報保障)が足りていない。デジタルワイヤレス補聴システム「※ロジャー」を導入し、教育効果を上げる考えは。

答 (教育長) 難聴児童に対する学校の合理的配慮(情報保障)が足りていない。デジタルワイヤレス補聴システム「※ロジャー」を導入し、教育効果を上げる考えは。

※ロジャー補聴を支援するシステム。話し手である教師が送信器を使用することで、受信器を通じて、児童生徒に直接的に声を届けることができます。